

閃綠岩礫ハ森吉火山東南麓ノ岩井ノ又澤沿岸ノモノヨリ流レ來リシモノナルベク(岩井ノ又澤ハ打當川ノ支流ニシテ、森吉火山ノ東麓ヲ流レ、其ノ稍、上流地方ニ石英閃綠岩ノ好露出アリ)、其ノ他ハ隨所ノ露頭ヨリ送致セラレタルモノナルベシ。  
 第四紀新層即チ沖積層ハ大又川及ビ小又川ノ下流ニ沿ヒ、河岸ニ密接シ極メテ狹ク發達セルモノニシテ、砂礫ヨリ成リ、特ニ記スベキコトナシ

要スルニ第四紀層ハ本地方ノ地質ニ關シ、重大ナル關係ナシ。

## 第五編 結論

以上數編ニ於テ余ハ森吉火山ノ地質事項ニ就イテ縷々叙述シタリ。茲ニ余ハ既記ノ事實ヲ摘記シテ森吉火山地質ノ大要ヲ窺知スルニ便シ、尙ホ本火山ニ關スル二三ノ私見ヲモ開陳シテ以テ本報告ノ結論トナサントス。

(一)、森吉火山ハ北日本ノ脊梁山脈上ニ坐棄セル那須火山脈ニ屬スル岩手火山彙ノ北方ナル燒山火山群ノ西方ニアル火山ナリ。

(二)、火山ノ基底ハ種々ノ火成岩及ビ第三紀層ヨリ成ル、火成岩ニハ石英閃綠岩、黑雲母花崗岩、輝石閃綠岩、流紋岩、輝綠小紋岩、輝石小紋岩及ビ富士岩等アリテ、第三紀層中ニ岩脈、岩株、岩床等ヲナス。第三紀層ハ主モニ凝灰岩及ビ泥板

岩(泥板岩モ凝灰質ノモノ多シ)ヨリ成リ、「ミオシオン」統ニ屬ス。唯、火山ヨリ西方ニ稍、遠ク離レタル地方即チ大又川以西ノ地ハ「プリオシオン」統ノモノタリ。而シテ第三紀層ノ層向ハ概シテ南北若シクハ之レニ近キ方向ニシテ、傾斜ハ東方或ハ西方ナリ。

(三)、此ノ火山ハ第三紀層及ビ種々ノ火成岩ヨリ成レル丘巒起伏重疊セル間ニ勃然トシテ隆起シ、山麓地方ニハ平野ナク、又火山ノ裾野ト云フベキモノ更ニ無シ。山ノ傾斜ハ一般ニ甚ダ緩ニシテ麓ノ邊ニ於テ凡ソ四五度、中腹ニ於テ八度内外、頂ニ近キ最モ急ナル所ニテ十四五度ヲ出デズ。遠クヨリ之レヲ望メバ、頂廣ク平ニシテ、彼ノ富士山式ノ火山ニ見ル如キ峻秀ノ趣ハ更ニ無ク、寧ロ草津白根火山等ニ類似シ、山ノ坐積ノ廣大ナル割合ニハ其ノ高距著ルシカラズ、所謂圓頂山ノ山相ヲ具備セリ。

(四)、本火山ハ二重式層狀火山ニシテ、最高峯向嶽ノ西方ニ於テ南北ニ互レル前嶽連嶺ハ西部外輪山、東方ニ於テ南北ニ走レル檜葉倉「タチカ森」ノ連峯ハ東部外輪山、向嶽ハ中央火口丘ナリ。

(五)、中央火口丘ハ舊火口ノ中央ヨリハ南方ニ偏シテ起リタルヲ以テ外輪山南部ヲ破リ、且ツ外輪山南側ヲ一部掩蔽セリ。

(六)、中央火口丘ノ坐積ハ舊火口底ノ全體ニ擴ガリ、從ツテ本火山ニハ火口原ト稱スベキモノナシ。

(七)、本火山ノ火山の活動ハ「ミオシオン」期ニ於ケル凝灰岩ノ成生ヲ以テ始マリ、其ノ當時ニ於テハ活動ノ勢轉タ盛ンニシテ以テ至厚ノ凝灰岩ヲ作りタリ。サレド此ノ時代ニ於テハ未ダ火山體ヲ爲サズ又噴出口ノ如キモ必シモ一定セズシテ通常云フ火山トハ大ニ趣ヲ異ニセリ。普通ノ意味ニ於ケル本邦火山ノ成生ハ第三紀以後洪積期ニ起リタルモノナレドモ本火山ハ之等ト異ナリ少シク舊期ニ屬ス。

(八)、火山ノ活動ハ中央火口丘ノ成生後間モ無ク止ミシモノノ如シ。且ツ寄生火山(側火山)、爆裂火口等ハ更ニ之レヲ認メズ。

(九)、有史以後活動セントノ記録口碑ナシ。

(十)、火山活動ノ末路ト見做スベキ温泉及ビ噴氣孔等ハ絶エテ之レ無シ。北麓ニアル湯ノ澤温泉(本地方ニ於ケル唯一ノ温泉)及ビ其ノ他一二ノ鑛泉ノ如キ、元ヨリ本火山ニ何等ノ直接關係アルニアラズ。

(十一)、火山活動ノ前半期ハ全ク碎屑物ノミヲ噴出シテ種々ノ凝灰岩ヲ作り、後期ニ至リ、熔岩、集塊熔岩、泥流等ヲ溢出シタルナリ。而シテ後期ニ於テハ火山灰、火山砂、火山礫等ヲ

噴出シタルコト無シ。サレバ火山體ノ心髓ハ凝灰岩ヨリ成リ、熔岩泥流等ハ表面ヲ掩ヘルノミ。最後ニ出デタルハ泥流ナリ。(十二)、熔岩ハ其ノ厚サ大ナラズ、種類多カラズ、且ツ概ネ相類似セル岩石ナルヲ以テ見レバ、熔岩噴出時代ハ永ク續カザリシモノナルベシ。

(十三)、最初ニ噴出シタル熔岩ハ灰色玄武岩ニシテ、之レニ次イデ種々ノ富士岩噴出シタリ。初期ノ富士岩ハ著色鑛物ノ班晶ニ乏シケレトモ終期ノモノハ之レニ富メリ。而シテ最後ニ噴出シタルモノハ橄欖輝石富士岩ナリ。

(十四)、噴出熔岩ハ概ネ角閃石及ビ橄欖石ヲ缺キ、殆んど常ニ紫蘇輝石ヲ含有ス。

(十五)、本火山ガ傾斜緩舒ニシテ、森林深ク、岩塊ノ嵯峨崖嵬タルモノナキハ、本火山ガ有史以前已ニ活動ヲ止メテ其ノ後全ク活動セズ、且ツ活動ノ後期ニハ碎屑物ヲ噴出セズシテ最後ニ泥流ヲ溢出シタルコト等ニ基ヅクコト少ナカラズ。

### 圖版說明

第一版。第一圖、森吉火山ヲ前田附近ヨリ東南ニ望ム。

火山ノ外形ガ富士山等ニ見ル如キ急傾斜ヲナサズ、山頂附近モ傾斜緩ニシテ從テ山ノ高サハ著ルシカラザレドモ、山脚ハ割合ニ廣ク擴ガリ、山勢ガ所謂中山性ヲ帶ブルヲ示ス。